

口の中にできる口腔がんのひとつ、舌がん。
「口の中から鏡で見ると分かるし、違和感があるの分かる」と思っていて、進行がんで発見されるケースが意外に多い。その舌がんの啓発活動に力を注ぎ、早期発見・早期治療に努め、さらに、体によさしい治療を推進している医師がいる。その名医とは――。
(医学ジャーナリスト・松井宏夫)



「良性腫瘍」「悪性腫瘍」など年間約500件。この中でがんの手術数は65件。内訳は「舌がん」38例、「上顎・下顎歯肉がん」15例、「頬粘膜がん」「口底がん」各3例、その他6例である。

その人は、昭和大学歯科病院(東京都大田区)口腔外科の新谷悟教授は「奇形・変形症」「炎症」「外傷」「のう胞」(511岡山・歯卒)。

外来患者は年間3万8000人を超え、手術件数00人を超え、歯科定期検診で発見された患者が歯科医の紹介で受診する。

舌がん 襲侵低 治療

これが新谷式

早期発見が信条です



舌がんの早期発見に力を注ぐ新谷悟教授(写真上)。口腔がんのうち約40%を占める「舌がん」。舌の側面の舌縁にできるケースが多い

「私是最も力を入れてるのは、舌がんを早期がんで発見することです」
開口一番、新谷教授は口にした。舌がんをも含めた口腔がんの早期発見に力を注いでいるのが広く認知され、歯科定期検診で発見された患者が歯科医の紹介で受診する。

3本柱である。
口腔内エコーによる舌がん深達度検査は、新谷教授が1995年に世界で最初に行った。「がんだからといって舌を厚く切除したのでは、術後のQOL(生活の質)に影響を与えます。がんの深さを正確に知ってより舌を残せると、QOLを下げずにすみます」

「無治療期間」を徹底して短くし、がんの進行を抑え、患者の不安な思いを解消して最善の治療に入る。その治療は、「低侵襲治療」。いわゆる「体によさしい治療」である。「口腔内エコーでがんの深達度を正確に診断」「セプトネルリンパ節生検」「首の傷口が目立たない切開」――これが新谷式「舌がん低侵襲治療」の

あります」

最初がなが転移する見張りのリンパ節だけを切除し、そこにがんが到達していなければその先のリンパ節は切除しない。

「リンパ節転移があると手術前に放射線療法と抗がん剤を併用し、がんを小さくして実質的な縮小手術を行います。もちろん首の傷口が目立たない術式です」

より舌を残し傷口も目立たせない

「舌めたくないのです。私の大好きな祖母は舌がんで舌が痛いと言ひ、食事もできずに亡くなりました。頑張った口の中のがんを治す口腔外科医を目指したので。だからこそ、諦めない医療を推進したいのです」

患者にとって心強い言葉、そして心強いパートナーである。

ホタルイカと菜の花パスタ

春が旬の、甘さ、ろ苦さを兼ね備え、材は栄養価が高い。えび菜の花は非常にβカロテンとビタミンB、C、カリウム、カルシウム、鉄、なバランスよく含む菜の優等生だ。また、今が旬のルイカは内臓のうろが持ち味なのでピルンAやE、ミネラルが非常に豊富。このろの苦さと甘さをパと合わせれば、代活発になる季節にぴったり。



ホタルイカは味が出る大ぶるを使う

舌がんとは

口の中にできるがんは「口腔がん」といい、日本人の全てのがんの約2~4%を占めている。年間の患者数は7000人、そして、約3000人が亡くなっている。口腔がんの中では「舌がん」が最も多く、全口腔がんの約40%を占め、男女比は2対1で男性に多い。こ以外で大きな原因となるのが「舌への慢性的な刺激」と「不衛生な口腔」。がんのできる場所の多くが舌の側面の舌縁。舌縁に刺激を与えると、「歯の治癒をしたときのかぶせ物が舌に当たる」「歯が欠けたのをそのままにしておき、常にその部分が舌にあたる」などである。

